

第3期横浜市こどもの貧困対策に関する 計画の検討状況について

- 「第2期横浜市子どもの貧困対策に関する計画」の計画期間が令和8年度末で終了することに伴い、引き続き、実効性の高い施策を展開していくため、令和9年度から13年度までの5年間を計画期間とする、次期（第3期）計画を今年度に策定する予定です。
- 本日は、計画策定に向けて、本市のこどもの貧困に関する実態等を把握・分析するために令和8年7月から8月にかけて実施した「こども・保護者向けのアンケート調査」及び「団体等へのヒアリング調査」の結果の速報や、計画の基本目標等の検討状況について、ご報告します。

2 実態把握のための調査について

(1) こども・保護者向けのアンケート調査

対 象	5 歳児の保護者	小学 5 年生 及びその保護者	中学 2 年生 及びその保護者	高校 2 年生世代 及びその保護者
目 的	こどもや子育て家庭の生活実態に関する数値的データの把握			
対象調査数	11,723人	各17,816人	各17,792人	各17,814人
依頼方法	パマトコ	郵送		
抽出方法	5 歳児を登録している パマトコ利用者全員	住民基本台帳から無作為抽出		
回答方法	オンライン			
調査期間	令和 8 年 7 月 15 日～ 8 月 12 日			
回答数	保護者：1,086件	こども：4,586件 保護者：5,846件	こども：3,939件 保護者：5,888件	こども：3,908件 保護者：5,974件
	(合計) こども 12,433件 保護者 18,794件			

2 実態把握のための調査について

(2)団体等へのヒアリング調査

目 的	日頃から多くのこどもや家庭への支援に関わっている方へのヒアリングを通じて、数字には表れにくいこどもや家庭の状況、必要な支援等を把握する
対 象	・ 以下の施設・事業等の担当者 寄り添い型生活支援事業、寄り添い型学習支援事業、母子家庭等就業・自立支援センター、困難を抱える子ども・若者の自立支援事業者、地域における子どもの居場所、保育所、区役所（こども家庭支援課）、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
調査内容	・ こどもや家庭の抱える困難・課題 ・ 関係機関との連携状況・課題 ・ 支援にあたっての課題 など
調査期間	令和8年8月5日～9月下旬（予定）

3 計画検討のプロセス及び方向性について

- 計画の検討にあたっては、外部有識者や支援団体等の関係者からなる「横浜市こどもの貧困対策に関する計画推進会議」や、関係区局による「庁内連絡会」を開催し、検討を進めています。
- 計画の基本目標や施策体系等については、現行計画を基本的に継承しつつ、「よこはまわくわくプラン」や、令和7年4月施行の「横浜市こども・子育て基本条例」に掲げられている「こどもが意見を表明する機会の確保」の視点などを新たに盛り込みます。
- 今後、こども・保護者向けアンケート調査や団体等へのヒアリング調査結果も踏まえて計画素案を策定します。

(1) 基本目標

全てのこどものウェルビーイングを社会全体で支え、未来を創るこども一人ひとりが、自分の良さや可能性を発揮し、豊かで幸せな生き方を切り拓く力、共に温かい社会をつくり出していく力を育むことができるまち「よこはま」を目指します。

4 計画の基本目標等(案)について

(2) 主要施策と目指す状態像

- 早期発見・早期支援、こどもへの支援、子育て家庭への支援、一人ひとりの状況にあわせた個別支援の考え方にに基づき、4つの主要施策で構成しています。

主要施策 I	気づく・つなぐ・見守る
目指す状態像	困難を早期に発見し、切れ目なく支援につながっている 【施策例】 妊娠期からの切れ目のない支援、様々な課題に対応する学校の取組、児童虐待防止対策
主要施策 II	こどものウェルビーイングを支える支援
目指す状態像	全てのこどもが豊かな学び・体験を積み重ねながら、夢や目標をもって、健やかに成長している 【施策例】 生活や学びの支援、進学支援・就学継続支援
主要施策 III	生活の基盤を整えるための子育て家庭への多面的な支援
目指す状態像	日常生活が安定し、安心して子育てができている 【施策例】 子育て家庭のゆとりの創出、経済的支援、就労・自立支援、ひとり親家庭への支援
主要施策 IV	こども一人ひとりの状況に合わせたきめ細かな支援
目指す状態像	貧困の背景に留意しながら、多様な境遇にあるこどもたちにそれぞれ必要な支援が行き届いている 【施策例】 困難を抱えるこどもへの支援、外国につながるこどもへの支援、不登校のこどもへの支援
4つの主要施策を支える基盤	こどもの豊かな成長を支える教育・保育の推進

(3) 施策展開にあたっての視点

- 1 全てのこどものウェルビーイングを支える
- 2 貧困の連鎖を断つ
- 3 妊娠・出産期からの切れ目のない支援が届く仕組みづくり
- 4 こどもの貧困の背景にある様々な社会的要因を踏まえた支援の充実
- 5 地域社会全体でのこどもの貧困対策の推進
- 6 こどもが意見を表明する機会の確保

5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

- こども、保護者それぞれのアンケート調査の主な設問の結果速報について、年代別及び所得区分別にまとめています。
- なお、今回の調査結果で記載している3つの所得区分は、国による「2022（令和4）年国民生活基礎調査」を参考に、本調査独自の区分として設定しています。

【参考】所得区分の定義

所得区分1：世帯人数別に算出した可処分所得が概ね国の貧困線を下回る世帯

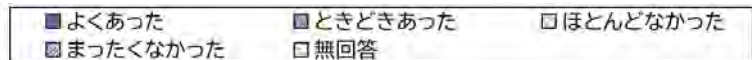
所得区分2：世帯人数別に算出した可処分所得が概ね国の貧困線以上、中央値以下の世帯

所得区分3：世帯人数別に算出した可処分所得が概ね国の中央値を上回る世帯

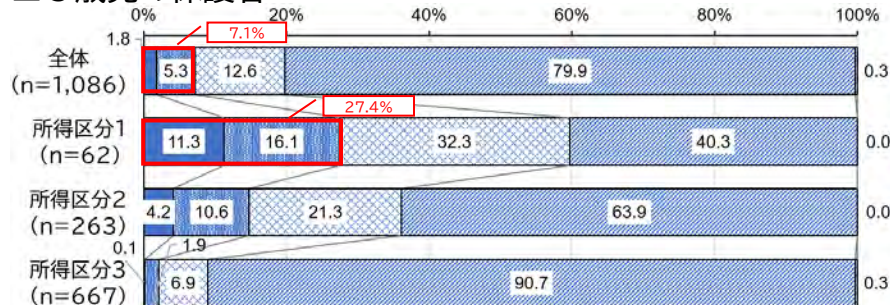
5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(1) 【保護者】過去1年間にお金が足りなくて必要とする食料が買えなかったことの有無

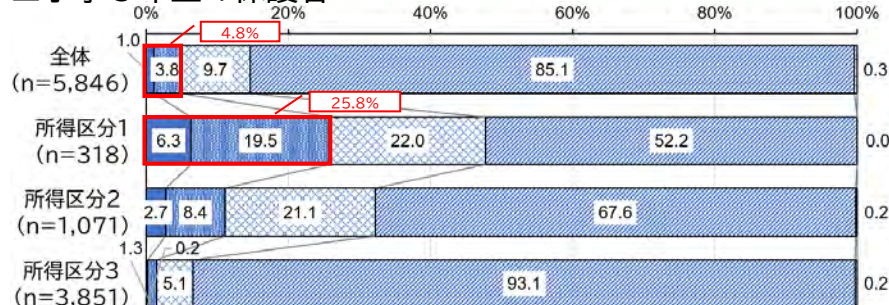
「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合は、各年齢層の保護者の約5%~7%となっています。
また、所得区分1に該当する世帯では、約4人に1人が「よくあった」「ときどきあった」と回答しています。



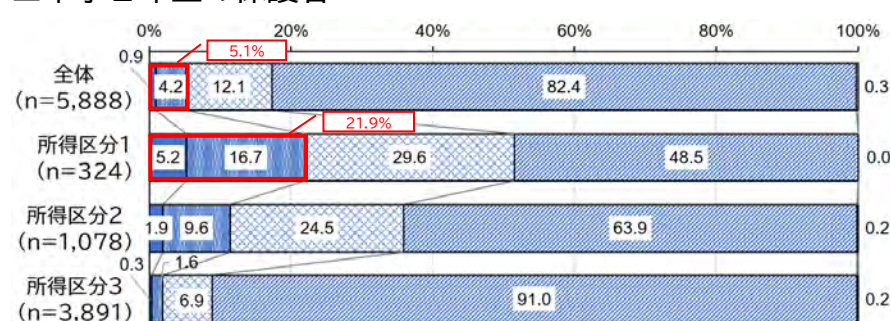
■ 5歳児の保護者



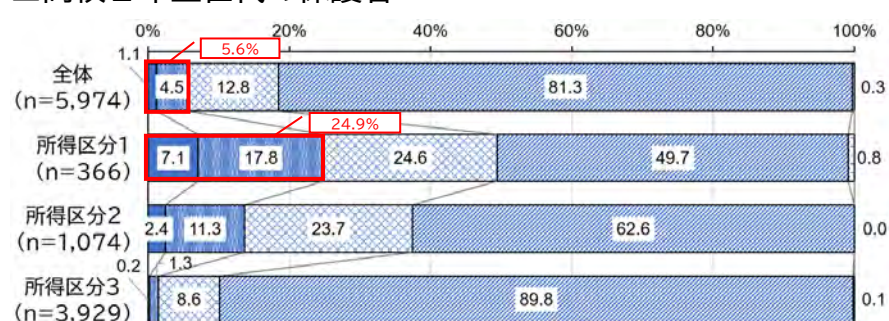
■ 小学5年生の保護者



■ 中学2年生の保護者



■ 高校2年生世代の保護者



※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(2) 【こども】最近の学校以外での生活の満足度

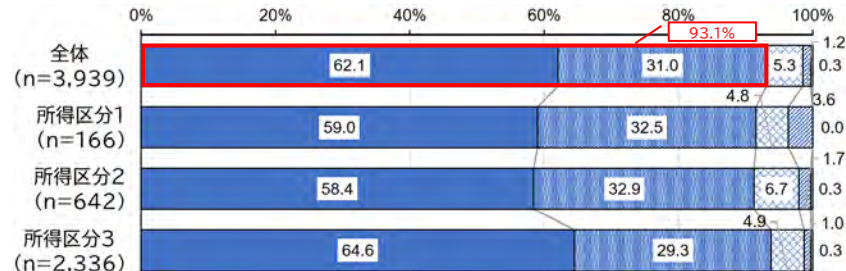
「満足している」「どちらかといえば満足している」の割合が、9割を超える結果となっています。
所得区分による大きな差はない状況です。



■ 小学5年生



■ 中学2年生



■ 高校2年生世代



※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

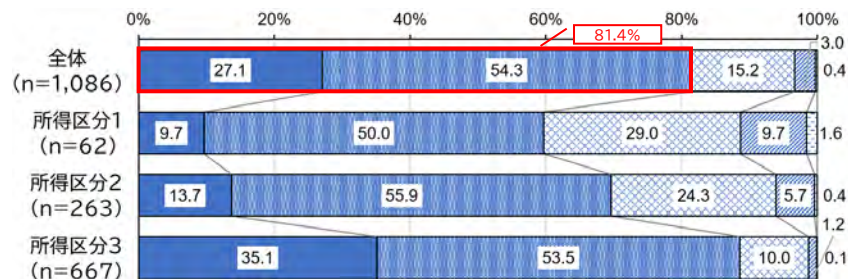
5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(3) 【保護者】最近の生活の満足度

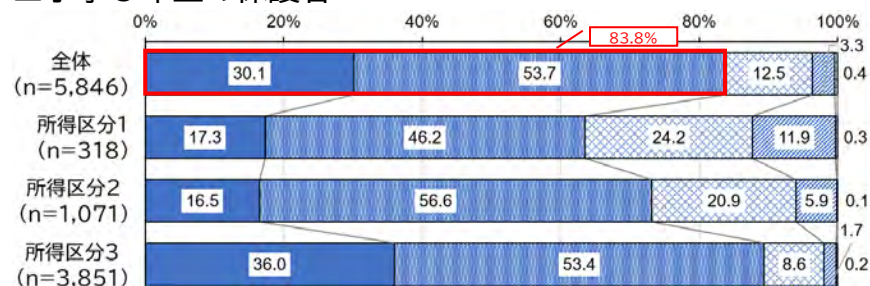
「満足している」「どちらかといえば満足している」の割合は約8割で、こどもと比較するとやや低くなっています。所得区分による割合の差が大きく、所得が増えるにつれて満足度は上がる傾向が見られます。



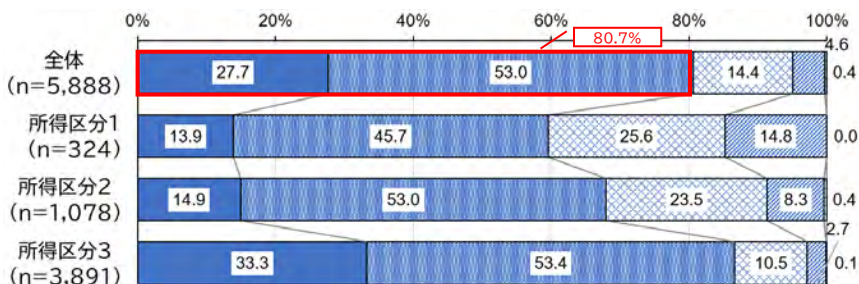
■ 5歳児の保護者



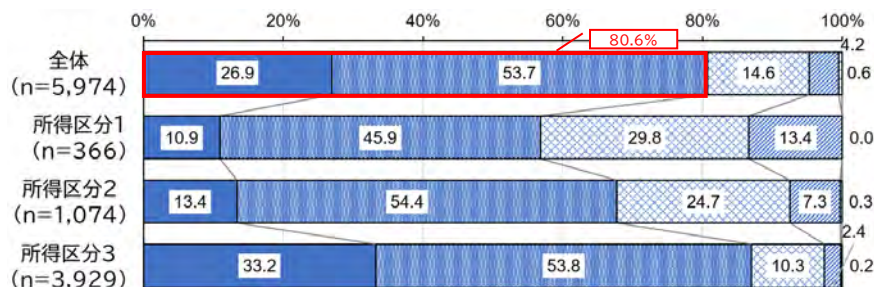
■ 小学5年生の保護者



■ 中学2年生の保護者



■ 高校2年生世代の保護者

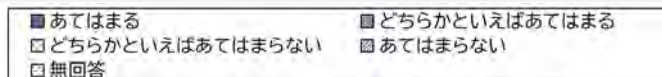


※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

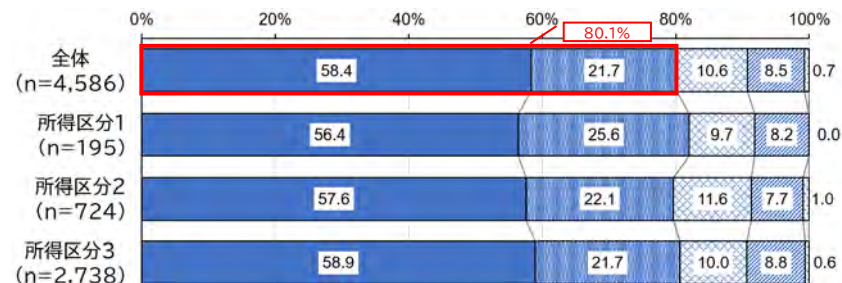
5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(4) 【こども】 将来の夢や目標を持っているかどうか

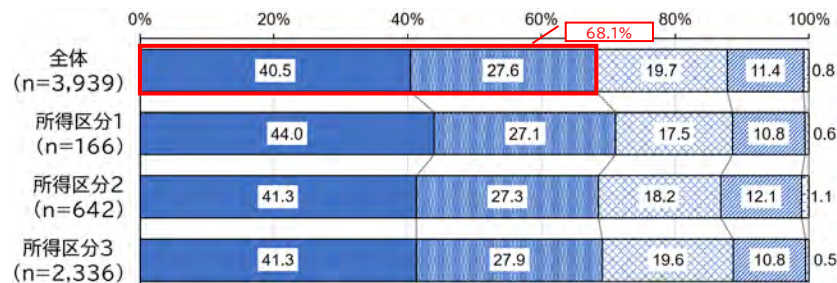
「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合は7割弱から約8割となっています。
所得区分による大きな差はない状況です。



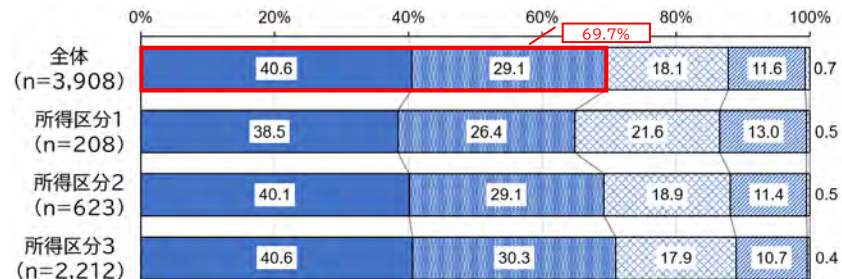
■ 小学5年生



■ 中学2年生



■ 高校2年生世代



※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(5) 【保護者】こどもは将来、現実的に見てどの学校まで進学すると思うか

所得区分に関わらず、「大学・大学院まで」の割合が最も高くなっています。
ただし、所得区分が低いほど、その割合も低くなっています。



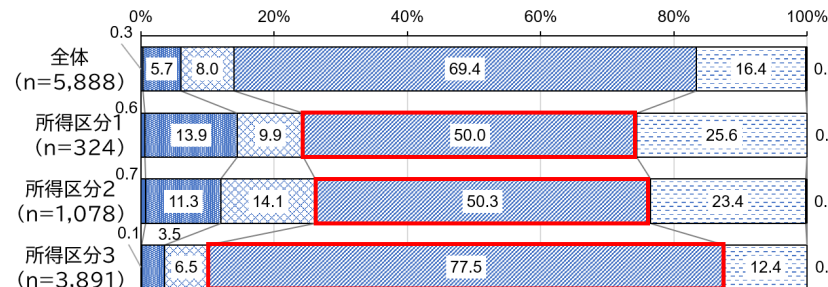
■ 5 歳児の保護者



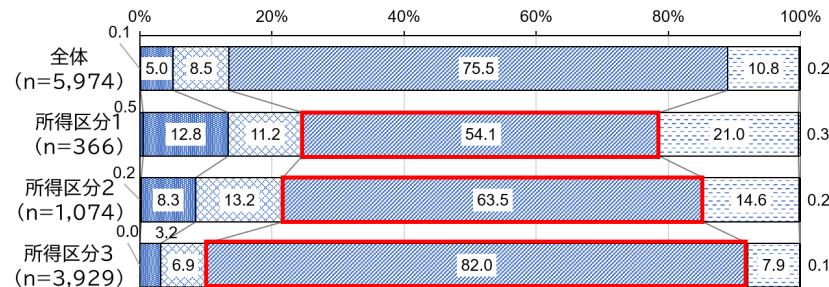
■ 小学5年生の保護者



■ 中学2年生の保護者



■ 高校2年生世代の保護者

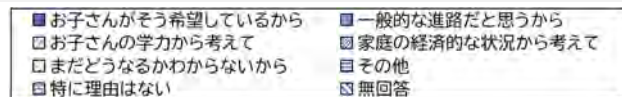


※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

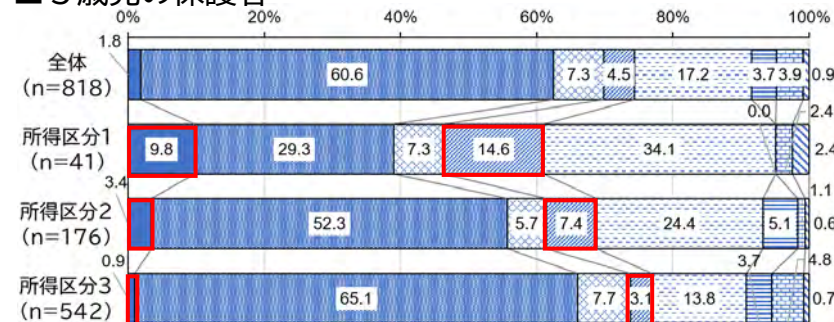
5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(6) 【保護者】こどもは将来、どの学校まで進学すると思うかについての理由

所得区分1における「家庭の経済的な状況から考えて」の割合は、5～15%となっています。
また、こどもの年齢が上がるにつれて「お子さんがそう希望しているから」の割合が高くなっています。



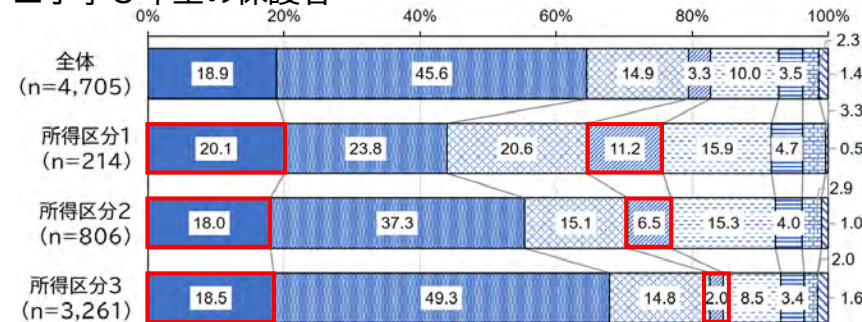
■ 5 歳児の保護者



■ 中学2年生の保護者



■ 小学5年生の保護者



■ 高校2年生世代の保護者



※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(7) 【こども】今、居場所となっているもの

「家庭」や「自分の部屋」の割合が高くなっています。
また、各年齢層で差はありますが、「インターネット空間」の割合も高くなっています。

(複数回答可の設問。所得区分の欄の括弧内はn値、各項目の数値の単位は%)

	小学5年生				中学2年生				高校2年生世代			
所得区分	全体 (4,586)	所得区分1 (195)	所得区分2 (724)	所得区分3 (2,738)	全体 (3,939)	所得区分1 (166)	所得区分2 (642)	所得区分3 (2,336)	全体 (3,908)	所得区分1 (208)	所得区分2 (623)	所得区分3 (2,212)
自分の部屋	50.2	49.7	50.7	51.5	70.8	62.7	66.5	72.7	78.0	72.1	74.3	80.7
家庭	89.8	87.2	89.6	89.5	80.5	80.1	78.5	81.6	77.0	69.7	73.2	79.5
学校	69.1	68.7	69.8	69.8	69.4	63.3	66.5	71.2	67.4	60.1	61.3	70.6
職場	—	—	—	—	—	—	—	—	23.2	23.8	25.6	22.1
公園	32.6	36.9	34.9	31.7	15.2	15.7	14.0	15.0	4.9	6.3	6.3	4.3
地区センター・スポーツセンター等の地域の公共施設	14.6	15.4	15.3	14.8	13.4	13.3	14.8	12.3	5.2	3.8	6.6	4.8
図書館	12.3	12.3	12.4	12.3	7.9	4.8	6.5	8.3	6.0	5.8	5.0	6.3
商店街やショッピングモール	10.2	10.3	10.1	9.8	12.3	13.9	13.2	11.9	5.7	3.8	6.3	5.4
ゲームセンター	7.8	10.3	7.6	7.6	8.7	9.0	10.3	8.8	3.7	5.3	4.3	3.4
インターネット空間(SNS、YouTubeやオンラインゲーム等)	23.7	28.2	26.7	22.8	35.2	39.8	38.5	33.9	32.9	38.0	37.4	31.1
その他	13.7	11.8	9.8	14.3	12.2	13.3	12.0	11.6	8.0	5.8	7.9	8.0
居場所となっていないところはない	0.6	0.0	0.3	0.5	0.7	0.0	0.8	0.7	0.9	1.4	1.1	0.7
無回答	0.2	0.0	0.3	0.2	0.3	0.6	0.2	0.3	0.4	0.0	0.3	0.3

※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(8) 【こども】困っていることや悩み事があるとき、相談できると思う相手

全ての年齢層で「親」「学校の友達」の割合が高くなっています。また、「生成A I」の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向となっているほか、「だれにも相談したくない」の割合が4～8%となっています。

(複数回答可の設問。所得区分の欄の括弧内はn値、各項目の数値の単位は%)

	小学5年生				中学2年生				高校2年生世代			
所得区分	全体 (4,586)	所得区分1 (195)	所得区分2 (724)	所得区分3 (2,738)	全体 (3,939)	所得区分1 (166)	所得区分2 (642)	所得区分3 (2,336)	全体 (3,908)	所得区分1 (208)	所得区分2 (623)	所得区分3 (2,212)
親	80.5	76.9	79.3	81.5	68.1	68.1	64.0	68.9	67.8	63.5	62.3	70.3
きょうだい	25.8	25.6	25.0	25.2	22.7	18.7	24.1	22.5	22.3	23.1	19.1	22.7
おじいさん・おばあさん・親せき等	27.4	23.1	24.3	28.4	18.3	21.1	17.6	18.5	11.4	13.5	10.6	11.1
学校の先生	38.1	35.9	40.2	38.7	34.3	31.3	34.0	34.9	32.3	31.7	30.7	33.2
学校の友達	56.8	49.7	60.1	57.4	65.7	58.4	62.6	67.6	63.8	57.2	58.7	66.1
学校外の友達	21.0	17.4	18.4	22.1	26.5	27.7	21.5	28.8	32.1	31.7	32.4	32.3
職場で会う人	—	—	—	—	—	—	—	—	10.9	11.1	10.3	9.4
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等	8.4	7.7	7.3	8.1	7.8	9.0	8.4	7.1	5.3	4.3	4.7	5.5
ネットで知り合った人	1.7	3.1	1.7	1.6	5.6	6.6	5.8	5.1	6.5	9.1	8.7	5.4
その他の大人(塾・習い事の先生、地域の人等)	12.0	8.7	12.2	12.6	14.1	14.5	13.4	14.6	10.7	7.7	7.2	11.8
生成AI(ChatGPT、Copilot等)	16.4	17.4	15.6	16.4	27.7	25.3	25.7	27.1	31.6	27.9	30.2	31.7
だれにも相談できない	1.1	1.5	1.7	1.0	1.6	1.2	2.3	1.3	1.6	1.9	1.4	1.6
だれにも相談したくない	4.3	5.1	4.3	4.3	5.7	7.8	6.1	5.7	5.4	5.3	6.7	4.9
無回答	2.0	1.5	1.2	2.0	2.0	2.4	2.2	2.1	1.8	1.9	2.6	1.3

※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

(9) 【保護者】 現在心おきなく相談できる相手

全ての年齢層で「家族・親族」「友人・知人」の割合が高く、5歳児の保護者は「幼稚園・保育所・学校の先生」の割合も高くなっています。次いで、年齢層で差があるものの「生成AI」の割合も高くなっています。

(複数回答可の設問。所得区分の欄の括弧内はn値、各項目の数値の単位は%)

	5歳児の保護者				小学5年生の保護者				中学2年生の保護者				高校2年生世代の保護者			
所得区分	全体 (1,086)	所得区分 1 (62)	所得区分 2 (263)	所得区分 3 (667)	全体 (5,846)	所得区分 1 (318)	所得区分 2 (1,071)	所得区分 3 (3,851)	全体 (5,888)	所得区分 1 (324)	所得区分 2 (1,078)	所得区分 3 (3,891)	全体 (5,974)	所得区分 1 (366)	所得区分 2 (1,074)	所得区分 3 (3,929)
家族・親族	84.7	69.4	79.5	89.4	83.1	67.0	80.1	85.8	81.5	70.1	74.6	84.9	79.7	68.6	73.8	83.0
友人・知人	58.6	48.4	51.7	62.8	55.9	48.7	52.0	57.8	53.8	51.5	48.5	56.3	51.0	45.6	46.7	53.3
幼稚園・保育所・学校の先生	34.7	24.2	28.9	39.6	12.3	11.3	10.9	12.9	7.8	4.6	7.5	8.3	4.5	2.7	3.5	5.0
医療機関の医師等	12.2	9.7	7.6	15.4	8.0	8.2	6.9	8.2	7.3	9.6	7.7	7.4	5.5	4.9	4.7	6.0
区役所や児童家庭支援センター等公的機関の職員(保健師等)	5.2	4.8	4.9	5.5	2.2	5.7	2.7	1.8	1.9	4.6	2.3	1.6	1.7	3.0	1.9	1.5
療育・障害福祉サービスの職員	8.7	4.8	8.7	8.7	4.1	6.3	5.2	3.6	2.9	4.6	4.5	2.4	2.1	2.5	1.7	2.1
民生委員・児童委員	0.2	0.0	0.0	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3	0.1
民間の支援団体の職員	0.6	0.0	0.4	0.6	0.3	0.6	0.4	0.3	0.3	1.5	0.2	0.2	0.4	0.5	0.4	0.3
生成AI(ChatGPT、Copilot等)	23.4	25.8	20.9	25.2	18.9	16.4	15.1	21.0	16.5	14.2	14.1	18.0	15.0	11.5	14.2	16.1
その他	1.1	1.6	1.5	1.0	1.4	3.5	1.1	1.3	1.4	2.2	1.8	1.2	1.2	2.5	1.2	1.1
いないが、ほしい	4.4	6.5	6.8	3.0	4.2	8.8	5.3	3.5	4.8	7.4	7.7	3.8	5.2	10.1	7.7	4.1
いないが、必要ない	1.9	3.2	2.7	1.2	3.3	6.6	4.3	2.9	3.8	5.6	5.5	3.4	4.5	4.6	5.4	4.2
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	0.6	0.1	0.6	0.0	0.3	0.1	0.6	0.3	0.6	0.1

※「全体」には所得区分未回答の方も含むため、n値の合計は一致しません

5 こども・保護者向けのアンケート調査結果(速報)

【参考】本調査における所得区分の定義

今回の調査結果で記載している3つの所得区分は、国による「2022（令和4）年国民生活基礎調査」を参考に、本調査独自の区分として設定しています。

所得区分1：世帯人数別に算出した可処分所得が概ね国の貧困線を下回る世帯

所得区分2：世帯人数別に算出した可処分所得が概ね国の貧困線以上、中央値以下の世帯

所得区分3：世帯人数別に算出した可処分所得が概ね国の中央値を上回る世帯

世帯員人数	所得区分1	所得区分2	所得区分3
2人	175万円未満	175～345万円未満	345万円以上
3人	210万円未満	210～420万円未満	420万円以上
4人	245万円未満	245～485万円未満	485万円以上
5人	275万円未満	275～545万円未満	545万円以上
6人	300万円未満	300～600万円未満	600万円以上
7人	325万円未満	325～645万円未満	645万円以上
8人	345万円未満	345～695万円未満	695万円以上
9人	365万円未満	365～735万円未満	735万円以上

※1 可処分所得：収入から税金・社会保険料等を除いた、いわゆる手取り収入

※2 貧困線：等価可処分所得（可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。
算出方法はOECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。

6 団体等へのヒアリング調査における主なご意見

(1) 近年のこども・家庭の状況や課題

- ・ 共働き家庭の増加等により、保護者がこどもと関わる時間を十分に確保できなくなっている。
そうした状況を背景に、愛着形成や対人関係に課題を抱えるこどもが増えている。
- ・ 発達障害、精神的不調、家庭環境の課題など、複数の困難を重複して抱える相談が増えている。
- ・ 若者支援では、10代や女性の相談が増加しており、親子関係などの家庭の課題を抱えるケースが多い。

(2) SNS・インターネット環境の影響

- ・ SNS等の普及等により、対面での関わりが減少し、人とのつながりをSNSに求めるこどもが増えている。相談や情報収集をAIやSNSで完結させる傾向も見られ、人と会って相談することへの心理的負担が高まっている。
- ・ こども、保護者ともに、即時の解決や肯定的な反応を求める傾向が強まっている。

6 団体等へのヒアリング調査における主なご意見

(3) 不登校に関する状況

- ・ 不登校支援の選択肢や学びの場は拡大しており、家庭やこどもが必要な支援を選択できる環境づくりが重要。
- ・ 不登校の低年齢化が進み、保護者の就労継続に影響する事例も増えている。

(4) こどもの体験機会の格差拡大

- ・ こどもの体験活動にかけられる費用の差が、こどもの経験格差につながっている。
- ・ 保護者の送迎負担等により、こどもが体験機会への参加を断念するケースが見られる。
- ・ 家庭の経済的理由から体験活動への参加をあきらめるこどもがいる。

(5) 家庭・保護者支援

- ・ 支援が必要な保護者ほど支援につながりにくく、家族全体を支援する視点が重要。
- ・ 学齢期以降の保護者支援は、未就学期と比べ足りていない。

令和8年

12月 第4回市会定例会において計画素案を報告

計画素案について市民意見募集を実施（～令和9年1月）

令和9年

3月 第1回市会定例会において計画原案を説明

計画策定